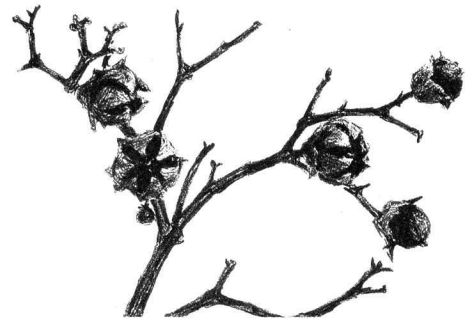


朝日 俳壇 歌壇



〈サルスベリVI〉 日高理恵子

佐佐木幸綱選

白息の男の子らのハイタッチ一人ふたりと増える通学路 (小城市) 福地 由親
 小鳥でもひとのみでせうな固形物を夫が汁椀にのこす無念さ (盛岡市) 山内 仁子
 雨上り香気は「この樟か冬」そよげれ植物園は (名古屋市) 山守 美紀
 身軽には生き難きかな身を守る暗証番号ふえゆく時代 (仙台市) 沼沢 修
 丁寧・適切に・全力で・速やかに 副詞の骸を連ねる首相 (東京都) 十亀 弘史
 埋め難き両者の溝はそのままだに辺野古の海は半分埋まる (五所川原市) 戸沢大二郎
 図書館で働く人も七割が非正規と聞く本が泣いてる (菊池市) 神谷紀美子
 ☆牡蠣のバスタややさしい海の味がして今日の夕餉は夫の当番 (大阪市) 多治川紀子
 ☆戦争のニュースを消して出立す広島へ修学旅行引率 (湖西市) 佐藤きみ子
 花嫁の衣装を見てる新婦側顔だけ見てる新郎側客 (富士市) 村松 敦規

【評】第一首、三三五五集まってくる小学生たちそれぞれが吐く息の白さが印象的。第二首、喉に不具合があって嚙下しにくいのだろう。「無念さ」がよく分かる。第三首、下句がうまい。人も少なく、ゆっくり回っているのだろう。

高野公彦選

高一の大震災を胸に秘め大リーガーの頂点に立つ (東京都) 椿 泰文
 ☆手を振れば手を振り呉る運転士子らははしやぎぬ三鷹跨線橋 (武蔵野市) 山口 京子
 少年がテントの母を守るため素手で溝掘る雨季のガザ地区 (中津市) 瀬口 美子
 ☆戦争のニュースを消して出立す広島へ修学旅行引率 (湖西市) 佐藤きみ子
 コンサートの帰りは「あずさ」空いていてユーミンの歌に守られ眠る (甲州市) 麻生 孝
 ☆牡蠣のバスタややさしい海の味がして今日の夕餉は夫の当番 (大阪市) 多治川紀子
 図書館船の就航を待つ瀬戸内に浮かぶ小さな島々の子ら (観音寺市) 篠原 俊則
 五葉松の剪定終へし老庭師彫像見入ることくに立てり (多摩市) 柳田 主馬
 熊よけに笹の音効くと知り得たが大ぶりの鈴三個持ち臺へ (飯田市) 草田 礼子
 ☆エサ用のメダカは一びき十五円食べられる日を知らずに泳ぐ (奈良市) 山添 聡介

【評】一首目、花巻東高校を卒業し、今アメリカの球界で大活躍するその人を讃える歌。二首目、太宰治ゆかりの跨線橋の取り壊しが決まり、その前に見学に来た子ら。三首目、大人に代わって必死で母を守る少年。四首目、重い気持ちだろう。

永田和宏選

☆エサ用のメダカは一びき十五円食べられる日を知らずに泳ぐ (奈良市) 山添 聡介
 理由なく辞めたわけじゃないあの時代「パワハラ」という語がなかっただけだ (東京都) 上田 結香
 タテカンの見えぬ歩道に枯葉舞い冬を迎える (京都市) 尾関 純也
 ☆手を振れば手を振り呉る運転士子らははしやぎぬ三鷹跨線橋 (武蔵野市) 山口 京子
 そう言えは太宰治の在りし日のその跨線橋わたしも渡りし (我孫子市) 松村 幸一
 さり気なく余命告げらる主治医より入院手術の説明のあと (栃木県) 川崎 利夫
 涙して「悔しい」と言う副大臣まるで自分が被害者みたい (観音寺市) 篠原 俊則
 往年の女優が微笑むホローの看板掛かる村の雑貨屋 (大阪市) 渡辺たかき
 小遣いをはたき集めし切手帖戻り美人実家で捜す (横浜市) 和田 順子
 「ママ先に逝かないでね」と娘言う「そうかやっぱ俺先に逝くわ」 (稲沢市) 山田 真人

【評】聡介君、エサとして買ってきたメダカが無心に泳いでいる。食べられる日も知らないでと気づいたとき、それぞれの命を実感した。大切な発見。上田さん、私もそうだったと同感する人も多いはず。尾関さん、タテカンのない京大なんて、と。

馬場あき子選

トンセイジャ、カワラ、カラチャマ、イキトスという魚みな食べアマゾンに去る (伊賀市) 福沢 義男
 小鳥にも師走はありて五十雀せむしく樹皮に木の実を隠す (石川県) 瀧上 裕幸
 オルゴールのねちを幾度も巻いてくれた父の手徳ぶ眠られぬ夜は (大和市) 澤田 睦子
 袈裟懸けに抱けばわが名を忘れたる父笑い一つ抱かれおたり (垂水市) 岩元 秀人
 ☆牡蠣のバスタややさしい海の味がして今日の夕餉は夫の当番 (大阪市) 多治川紀子
 目に見えぬほどの高速回転で突つ張り切つた関脇寺尾 (八尾市) 水野 一也
 獺終る裸の猪は爪そろそろえすがすがしくも横たわりけり (静岡県) 野月 真人
 カメムシがいたと夜更けに嫁騒ぐすく駆けつけるカメムシ助けに (つくば市) 山瀬佳代子
 土鳩鳴く切々と鳴く何かあつたの遠方の息子をひとしきり思ふ (龍ヶ崎市) 反町まさこ
 マスクして葬儀に出れば息苦し読経進めば心も苦し (飯田市) 草田 礼子

【評】第一首の四種の魚名はみな食用魚。アマゾンの記憶を魚名によって鮮やかにみせた。第二首の小鳥の帰巢。厳冬入りの季節はやはりきびしいか。第八首はカメムシぎらいの嫁の騒ぎにおっとり刀で駆けつける姑の結句が楽しい。

短歌時評 令和時代の川柳

小島 なお

鳥二つどちらを姉と呼ぼうかな

小池正博

むしゃくしゃしていた花ならなんでもよかった

平岡直子

未来はきつと火がついたブリクラ

暮田真名

どちらも姉たええない前提を「かな」という気分の軽さでかわす一句目。無差別に人を傷つけた犯人の発言を下敷きにする二句目。三句目、過去の象徴であるブリクラを燃やして来る未来と。

著者いわく「わからなくておもしろい」感覚を肯定することが詩を好きになるヒントだと。現代川柳がいま熱い。(歌人)

『宇宙人のためのせんにゅう入門』(左右社)は、道で偶然拾った宇宙人「せんにゅう」と、著者であり川柳人である暮田真名との奇妙な七日間の共同生活の物語だ。そして現代川柳について話す二人の会話形式で展開される川柳入門書でもある。

川柳というところの多くの人が思い浮かべるのがサラリーマン川柳やシルバー川柳といった社会や時事をタジャレや自虐まじりのユーモアで詠むスタイルだろう。

右がサラリーマン川柳で左が現代川柳。「フリが違いすぎる」と宇宙人からささめもつともな指摘が入るようになり、「退勤後の過ごし方」でもこれだけ目指すものが異なる。「現代川柳の特徴は『普通』からこぼれ落ちていく」とするものに目を向けていることだと著者は言う。

盆踊り
USA
五時過ぎた カモンベイビー
残業がなければ川を見て帰る
榑崎進弘
「かわらぬ姉たええない前提を「かな」という気分の軽さでかわす一句目。無差別に人を傷つけた犯人の発言を下敷きにする二句目。三句目、過去の象徴であるブリクラを燃やして来る未来と。」

坪内総典著「古い俳句——君とつるりんしたいなあ」帯に「古いと俳句の関係についての考察も、おさおさ怠りない、快進撃のエッセーである」。(ウエップ・1760円)
 第14回北斗賞 文学の森主催。名古屋市の若林哲哉さん(25)の「嗽口」(150句)に決まった。俳句の未来を開く若い俳人を輩出することを目的にした賞で、40歳までが対象。

☆印は共選作。掲載作は記事への引用や、電子メディアやSNSへの掲載・収録をすることがあります。投稿は無地のはがき1枚に1作品、未発表の白作のみ。作品の横に住所、氏名、電話番号を明記。〒104・8661 晴海郵便局私書箱300、短歌は「朝日歌壇」、俳句は「朝日俳壇」へ。二重投稿は不可。選者が添削する場合があります。